

きんてんかく  
**金天閣**

所在地：洲本市 山手



金天閣

金天閣は、寛永 18 年（1641 年）に阿波藩主蜂須賀至鎮（はちすかよししげ）が三熊山北麓の洲本城内に建てたと伝えられています。江戸時代初期の書院造の貴重な一例です。現在は、洲本八幡神社境内にあります。

明治時代以降の数度にわたる移築のなかで、改変された跡もみられますが、内部はほぼ当初のまま残されています。床、脇床、書院構、納戸構を備え、黒漆喰の折上げ格天井に金箔が貼られていることから金天閣と呼ばれています。納戸構に打たれた蜂須賀家紋入りの飾り金具や欄間の意匠彫刻は、江戸時代初期の特徴をよく示しており、県内に残る数少ない殿舎建築です。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
  - ✓ 歴史がつくりだす景観
  - 生活・文化がつくりだす景観
  - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道洲本 IC 下車、国道 28 号を東へ。塩屋交差点を右折して県道 76 号線に入り、栄町二丁目交差点を左折、栄町二丁目東交差点を右折して南に進む。車で約 20 分。



地図出典：国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図